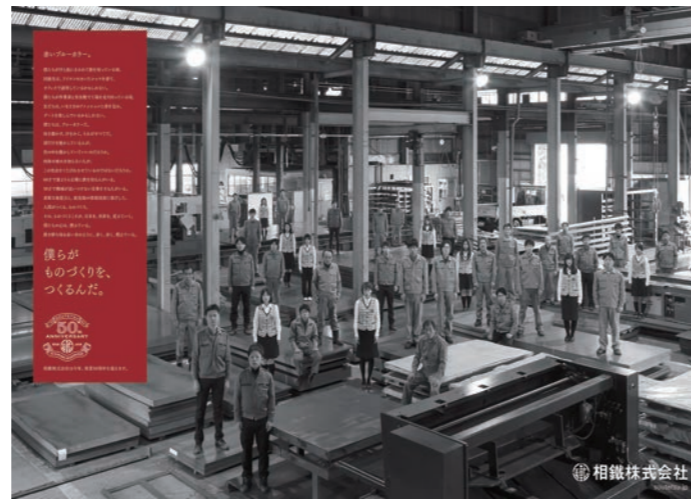




TOPIX | 茨城新聞 広告大賞受賞



去年7月14日付けの茨城新聞に、相鐵50周年記念PR広告『赤いブルーカー』というタイトルで見聞き広告を掲載しました。この度その広告が、第22回茨城新聞広告賞 最優秀賞に選出されました。この賞は、去年3月から今年4月までの期間内に掲載された企業広告の中で、企画や表現などが優れている企業を表彰するというもの。今回の受賞は会社にとって喜ばしいことですが、従業員やその家族にとっても誇らしいことだと思います。

水戸市内で行われた授賞式。会場内がスーツ一色の中、普段通りのブルーカーの作業着で出席した三村社長。受賞スピーチはこんな言葉で始まりました。「素晴らしい授賞式に、不釣り合いな服装で申しわけありません。本日はあえて、このブルーカーの作業着で出席させて頂きました。(中略)授賞式のまさにこの瞬間も、現場で汗を流し、鉄と向き合っている従業員の仲間たちに感謝の言葉をおくりたい」と。

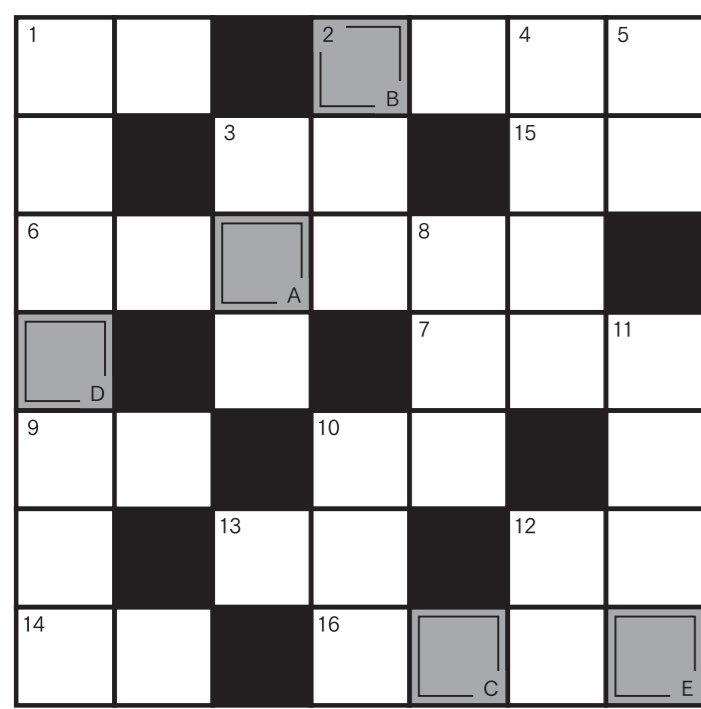
相鐵は鉄と戦う会社。ブルーカーのユニホームで奮闘する従業員への感謝の言葉を述べていた。『赤いブルーカー』、その言葉の意味がまた少し変わった気がした。



「つなぐ、想いを、つよく」。お客様との“あたらしいカタチ”を創る相鐵新聞。

懸賞鐵クロスワードパズル

正解者の中から抽選で人気フルーツを5名様にプレゼント! LET'S TRY!



- ヨコのヒント
- ① サンタさんの必需品
  - ② 暑い季節、涼むには最適な場所!
  - ③ 日本食と言えばこれ!
  - ④ トトロのあのシーンを思い出そう。この季節にぴったりな食材!
  - ⑤ クールな人に多い
  - ⑥ 口の中に沢山顔を含む動物は?
  - ⑦ 出かける前は〇〇を閉めるのを忘れずに
  - ⑧ 日焼けが水着の〇〇になっている
  - ⑨ 雲1つない〇〇
  - ⑩ サザエさん家のマスオさん
  - ⑪ キリンの特徴は〇〇が長い
  - ⑫ プレゼントと言えばこれ! 気持ちが大切!

レーザーカット!? いやいや、マスカット!!

皮ごと食べられて甘さ抜群! シャインマスカット

- タテのヒント
- ① 夏が終わっても寒くはな
  - ② 艦首 (ノーズ) の
  - ③ 海上自衛隊の護衛艦は?
  - ④ 悲しく泣いている様子
  - ⑤ かわい子には〇〇をさせよ
  - ⑥ 〇〇色に日焼けした肌
  - ⑦ 得意技は回し蹴り!
  - ⑧ 鳥は鳥でも
  - ⑨ 飛ばない鳥はなんなんだ?
  - ⑩ しやしやぶをすするお湯に

解答欄

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

A~Eに当てはめて言葉を完成させよう!!  
ご応募は左記方法にて受け付けます。

応募締切日

10/16(金)

前号の答え ステンレス

す	は	て	に	す
い	わ	ず	れ	い
か	わ	い	あ	せ
わ	し	ぞ	う	い
り	た	く	ち	か
ぞ	う	か	た	び
ゆ	う	え	ん	ち
わ				

解答は住所、電話番号、お名前をご記入の上こちらまでお願いします。(担当・平山)  
MAIL sayuri.hirayama@soutetsu.jp (24時間受付) FAX 0294-33-2632 (24時間受付)  
TEL 0294-33-2005 (午前8:00~午後5:00 土日・祝日を除く)

1週間限定  
ロール曲げ  
5%割引

※対象期間10/5(月)~10/9(金)内のご注文に限ります。  
※詳しくはホームページをご覧ください。

ちょっとひと息 編集後記

暑い夏も過ぎ、朝晩は秋の気配を感じられるようになってきましたね。美味しい物が盛り沢山の季節。食べすぎ注意の丸藤でございます。今号でもいろいろな所へ行かせてもらいました。その中でも水戸の授賞式。日常において、このような機会は滅多にないので、とても貴重な経験ができました。実際の所は、授賞式後の懇談会での立食バイキングが楽しかった私。社長のお手伝いもそっこのけに、美味しい料理に舌鼓をうっておりました。これも仕事の一環ですので、しっかり食べさせて頂きました。それと、定番企画の社長インタビュー。直接お会いして考え方や今後の展望などを聞けるのも、すごく勉強になる時間なのです。この相鐵新聞を通して、私も少なからず成長出来ていればと思う今日この頃です。



「原点」からのスタート。この挑戦を止めるな。

第7スタジアムが完成して、早1年が経とうとしている。旧第1工場からプレス曲げ3台を移設。新規導入したロール曲げ2台もチーム相鐵に加え、本格稼働を始めた。当時、ロール曲げに関しては全くの素人。「試行錯誤」まさにこの言葉通りの日々が続いた。「ゼロ」からのスタートである。今、第7スタジアムに足を運ぶと「キレイに円を描いた鉄板」や「三日月のようにRがついたステンレス」が大小様々な形で迎えてくれる。特に大きな鉄板を曲げている光景はまさに圧巻の一言。相鐵新聞第2号は、『鉄は曲げても、己は曲げない』、第7スタジアムの5人の曲げ職人たちの特集記事である。



立上げメンバーの野上秀勝。以前はレーザー切断を担当していた。ある日工場長から「お前に任せた」の一言で、ロール曲げを担当することに。「正直、やりたくはなかった」というのだが、現在は曲げ部門のリーダーとして奮闘する日々をおくる。

「やっとスタートラインに立てたという感じです。まだまだ勉強することは沢山あります」そう謙虚に話してくれた。

今までで1番印象に残っていることを聞いてみると、「稼働1ヵ月後に注文が入った板厚19×1500×6200mmの大きな鉄板。半円状に曲げる製品で300mmも寸法がズレた。あの時は、なぜ?なぜ?の繰り返しでした」この時の経験は今でも活かされているという。

「板の厚さや重さ、曲げる角度などその時々で“考える幅”が広がったと思います。お客様には迷惑かけちゃいましたが、いい意味で勉強させてもらいました」苦い思いを肥やしに、成長できているとも話していた。失敗を経験し、成功へと繋げて行けているのではないだろうか。

ここからは、第7スタジアムのメンバーの話聞いた。「一言で表すと『個性様々』ですかね。最年長の茂野さんは、とにかく仕事に真っ直ぐ。黙々と仕事に打ち込む姿勢は、若い社員の手本になる。次は沼田、オールマイティという印象で、自分で納得するまで考える人かな。考えるから、何かに気付くのが誰よりも早いと感じます」この二人は第7スタジアムの主力的存在である。今日も新規図面と向き合い、黙々と仕事に打ち込んでいる。

この二人の背中を追いかけているのが、期待の若手。「杉田が2年目、住谷は1年目の新人。経験や知識が浅いのはしょうがない。若いんだから失敗を恐れないで、がむしゃらに頑張ってもらいたいと思います。仕事が回り回ることがありますが、着実に成長します!これからは楽しみですよ」

最後に、ロール曲げの割引キャンペーンについて、その意気込みをお客様に向けて話してくれた。「お客様あっての相鐵ですからね、沢山のご注文お待ちしております。僕らは常に、図面と鉄板と向き合って“やるしかない”。常にお客様の期待に応えたいと思っています」

第7スタジアムでチームを組む5人。個性様々と表現していたが、それがあって良いケミストリーを起こしているのかもしれない。

# モノをつくることは、 まずヒトを知ること。 曲げ部門リーダーに聞く、 「失敗は成功のもと」



氏名(年齢) ①自己紹介 ②趣味 ③休日の過ごし方 ④自分が成長したところ ⑤今後の抱負など



**茂野 健一 (46)**  
製造部 第7スタジアム  
ロール曲げ担当

①性格を一言で言うと、「好き嫌い」がハッキリしてます②これといってないんです・・・③月曜日に向けて、体をリフレッシュさせてます④ロール曲げを担当し、仕事の幅が広がったこと⑤円錐曲げの技術向上が目標です

**野上 秀勝 (33)**  
製造部 第7スタジアム  
ロール曲げ担当

①面倒くさがるの心配性(ツライ仕事が嫌いです...)②簡単なものづくり③家族でお出かけ(愛娘との散歩が一番楽しい!)④作業中の集中力維持が容易になった⑤どんな鉄板でも曲げられるようになりたい

**沼田 卓 (27)**  
製造部 第7スタジアム  
プレス曲げ担当

①何事も楽しくがモットー(ちょっと短気な部分も...)②軟式テニス&音楽ゲーム③美味しいお店を探して食べ歩き&ドライブ④次の作業へ自然と動けるようになった⑤後輩達のお手本になれるよう頑張りたい

**杉田 拓哉 (19)**  
製造部 第7スタジアム  
プレス曲げ担当

①何事にも積極的に取組めるところ②愛車でドライブ&釣り③愛車の洗車&友人とのドライブ④まずはチャレンジ。これが出来るようになった⑤自分ひとりで仕事をこなせるようにしたい

**住谷 充紀 (18)**  
製造部 第7スタジアム  
プレス曲げ担当

①ひ弱な僕ですが、先輩のように力をつけたい②読書(漫画含む)やパソコン③趣味を極めてます④日々の仕事の中で、力がついてきた⑤まだまだ戦力になりませんが、先輩を越えたいと思います

曲げ設備の能力表	ロール曲げ		プレス曲げ			
	TPB-19×4150(神埼工業)	TPB-12×2050(神埼工業)	HD3504NT(アマダ)	RG100S(アマダ)	SPH-60C(アマダ)	
最大可能幅(mm)	4,100	2,000	最大加圧能力(t)	350	100	60
上ロール径(mm)	Φ520	Φ280	最大可能幅(mm)	4,000	2,500	1,000
対応板厚(mm)	3.2~25.0	1.0~12.0	対応板厚(mm)	0.5~25.0		

※上記は最大可能値となりますので、詳しくはお気軽にお問い合わせ下さい。

## 平山副編集長の アメリカ出張レポート

何もかもが初めての経験。  
そこで得た、新たな課題とは

私の所属する設計部では、去年の8月にシグマテック社が販売しているCADソフト「シグマネスト」を導入した。シグマテック社はアメリカに本社があり世界中に営業所を設立している。シグマネストを使用してみると初心者私でも高性能なソフトであることが実感できた。そんなある日、シグマテック本社のBEN社長が相鐵に足を運んでくれた。

BEN社長から「次回は是非、アメリカ本社に遊びに来て下さい!」と言われたが社交辞令に過ぎないと思っていた。しかし、今年の3月に受信した三村社長からのメールには『アメリカ出張にあたって』と記載されていた。興奮のあまり声をあげてしまった。それと同時に不安もこみあげてきた。

初めての海外、しかも学生時代に英語なんてまともに勉強していない。

そんな私の不安などおまきなしに三村社長は、飛行機の手配から、ホテルの手配、メジャーリーグの日程やおいしいレストランの下調べなどを私に任せた。満面の笑みで「旅にトラブルはつきものさ!」と言われ、正直励まされるのかよく分からなかった。それと並行し、英会話も始めた。出来の悪さに講師の先生も頭も抱えていた。

不安のあまり出発の2日前に38度の知恵熱を出しながらも、なんとか出発することができた。

いざ到着すると英会話レッスンは全然役に立たなかった。三村社長の後ろをついていくのが精一杯だった。「ほんとに英会話を勉強したのか!」と叱られながらも空港を出ると、シグマテックジャパンの山本様が迎えてくれた。

そして私たちはシグマテック本社に到着した。BEN社長が笑顔で迎え入れてくれ、私の緊張も少しほぐれた。

1日目はBEN社長直々に会社の方針、ビジョンなどを聞かせてもらうことができた。まだまだ使いこなせていない機能を知り自分の未熟さを痛感した。本社見学後、山本様に連れられ人生初のメジャーリーグを観戦することができた。ビールを片手に見るメジャーリーグは、野球に詳しくない私でも、とても気持ちのいいものであった。結果もサヨナラ勝ちで、この野球観戦も今回の出張の成功に大きく貢献している。

2日目はシグマネストを導入している2社を見学した。夕食はBEN社長に丘の上の素敵なレストランに連れて行ってもらった。そこでごちそうになったステーキはまさに「ほったたが落ちそう」という表現がぴったりであった。アメリカ・シンシナティの企業3社を見学して、日本の企業と明らかに違うと感じたのは、社員1人1人がのびのびと仕事をしている様子だ。ダラダラ仕事をしている訳ではなく、日本のように構えすぎないような印象を持った。

今回のアメリカ出張は見るものすべてが刺激的であった。これからはソフトの勉強はもちろん、英会話の学習も継続していきたいと思えるような経験ができた。山本様をはじめ、普段一緒に働いている仲間たち、たくさんの方々の協力があったからこそ、今回の出張は実り多いものにすることができた。出張中に三村社長が酔っ払いながら、事務所にぶざけて電話したせいもあり、会社に戻るとやはり「遊びに行っていただけだろう!」と責め立てられたが、そんなことは気にならないぐらい充実した日々を送ることができた。次の出張の機会を作るためにも、これから長い長い準備に取りかかると思う。その時は通訳が必要ではなくなることを夢に見て。



## 社長 × インタビュー Vol.2

昇栄工機 高安栄治社長が  
これからの相鐵を語る!

茨城県東茨城郡にある昇栄工機有限会社。取引を始めるきっかけは、お客様からの紹介だったという。「短納期対応してくれる鋼材屋」を探していた時、タイミングよく相鐵と繋がった。今回のインタビューは、高安栄治代表取締役社長、先代からの長いお付き合いの中で、感じ想うことを語って頂いた。

創業は昭和38年。人生の大半を現場で過ごしてきた。「若いころはよく強かった。出来ないことでも出来ます、って言ったり(笑)。休みの日でも仕事のことばかり考えてたね。人に聞く前に、まず自分で考えた。職人のプライドってやつかな」がむしゃらに人生を走り抜けてきた高安社長。多くの企業をみてきて思う、相鐵の強みやアドバイスを聞いた。「積極的に投資をしていることと、会社のリーダーが若いこと。アドバイスがあるとすれば、営業も現場も事務も、職人のプライドを持ってお

くべきだと思うよ。何を聞かれても、すぐ答えられる知識を身に付けておくのと良いと思う」と言う。「仕事も人生も常に勉強だからね」まさにその通りだと感じた。「相鐵は小さな鋼材屋だった。そこから段々大きくなり、今はロール曲げも手掛けている。今後、機械加工・溶接・製缶・塗装まで一貫生産出来る様になったらすごいね。M&Aみたいなこともやれば面白いことになるかもしれない。もちろん、リスクも高いけど」とも語っていた。最後に、昇栄工機の今後の展望などを聞いた。

「新しい分野への挑戦は考えている。でも容易ではないことも理解している。昔に比べステンレス・アルミが増えてきたけど、「鉄」は絶対この世から無くならないからね。今までやってきたことの積み重ね。技術の蓄積を活かせるものやしていきたい。希望をいえば、戦車なんかを造ってみたいね」



高安栄治代表取締役 プロフィール  
1950年1月5日、茨城県那珂湊市に生まれる。水戸工業高校機械科を卒業後、19才の時に入社。数十年現場一筋で腕を磨き工場長へ就任。その後、平成9年9月1日より代表取締役役に就任。現在に至る。愛読書は、「利根川と淀川」(小出博 著)

## 丸メ支店のご紹介

会社から歩いて3分。日立市千石町にある『丸メ』さん。相鐵と同じ時期にこの地で営業を始めたという。古くからの常連だという工場長。おすすめの一品は「ラーメン(450円)とギョウザ(350円)」。工場長曰く、「飽きがこない、週1くらいでまた食べたくなる味」だそうです。メニューも豊富で、仕出しや宴会なども行っています。ちなみに、相鐵の忘年会は毎年お世話になっています。近くへお越しの際は、是非『丸メ』さんへお立ち寄り下さいませ。



## 工場長の鉄めし